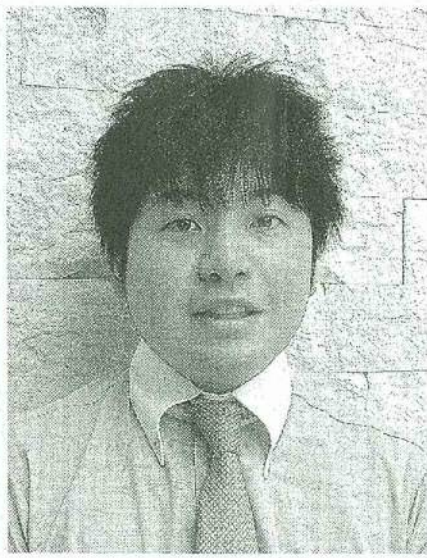




高校1年で全国障がい者スポーツ大会に初めて出場し、平泳ぎ25歳・50歳でいきなり優勝した。以来、少々の部の個人種目では1度

の銀を除き、全て金メダル。団体メドレーでは銀メダルを獲得した。昨年、初めて成年の部に移り「レベルが全然違った」とはいえ、全種目銀メダルを獲得した。



わたなべ けいと
渡辺 啓仁さん

競泳(平泳ぎ)選手の
ポラスシェアーディング社員

「意味がない」という言葉だ。負けず嫌いは水泳にとどまらない。会社での5人チームで各自の作業量が分かるデータ管理業務では「誰よりも速く多くこなすこと」が目標だ。高校での職場研

という。いつまでに何をするべきか、スケジュールを振り返る。現在は週3回ほどジムのプールで自主練習する。週1回は平日の終業後、夜8時から2時間泳ぐ。有給を使い、最大で年6回の全国大会に出場している。パラリンピックの強化指定も受けているもの

目標は日本一とパラ東京大会

強化指定も受けているもの

修が縁で入社し4年目だ。入社以来の図面や各事務所の施錠時間のデータ登録や管理業務に、2年目からは他社の物件の売れ行きや価格変動をチェックする市場調査業務も加わった。管理

最後に残ったのが水泳だ。中学生になると、コーの強豪選手も立ちはだかる。一方、「学校で「全国大会で金メダルを取ることが、実績を積む第一歩」。最終目標は、もちろん4年後の東京。パリ

けるまでは、特にひどかった。 (菜)